

Title	フランス文学と鳥類学：マルセル・プルーストを中心に
Sub Title	French literature and ornithology : especially about Marcel Proust
Author	福田, 桃子(Fukuda, Momoko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>マルセル・プルーストの作品において、鳥のテーマはきわめて重要かつ遍在的であるにも関わらず、これまで行われてきた研究は断片的なものにとどまっていた。本研究では、初期作品から『失われた時を求めて』まで、プルーストの作品における鳥のテーマを網羅的に分析することで、プルーストの美学の一端を浮き彫りにすることを目指した。</p> <p>プルーストに多大な影響を与えた作家であるピエール・ロティ、アンナ・ド・ノアイユ、ジョン・ラスキンの作品における鳥の描写が、プルーストに与えた影響について検討した。その結果、これまで明らかになっていなかった細部の読解が可能になった。とりわけ、ラスキンがプルーストにもたらした影響について新たな光をもたらすことができた。この点は今後更に掘り下げる必要があるため、次年度以降において発展させるべきテーマである。この研究の成果は、2019年3月に発表された研究論文「鳩からアルキュオネまで―マルセル・プルーストの作品における鳥―」にまとめられている。</p> <p>2018年10月には、慶應義塾大学日吉キャンパスで、「鳥たちのフランス文学」と題したシンポジウムを主催した。18世紀から20世紀フランス文学を研究する7名が、各人が専門とする作家における鳥のテーマについて発表を行った。ここでは、「プルーストの鳥類学」と題した発表を行い、プルーストの作品における鳥のメタファーの独自性について詳細な分析を行った。</p> <p>幅広い作家における鳥の表象を扱う本シンポジウムでは、文学と自然科学のつながりについて新たな知見をもたらすことができた。文学研究者だけでなく鳥類学者とも活発な質疑応答がなされ、文系・理系の枠組をこえた豊かな知的交流につながる催しだった。</p> <p>The theme of birds in the works of Marcel Proust has not been sufficiently explored despite its importance. I attempted to clarify Proust's aesthetics by examining this theme in <i>In Search of Lost Time</i> as well as in his early works. I examined the theme of birds in the works of Pierre Loti, Anna de Noailles and John Ruskin, and their possible influences on Proust. A comparative reading with Ruskin around the theme opened a new and convincing interpretation of some enigmatic sentences in <i>In Search of Lost Time</i>. In March 2019, I published this interpretation in the article "Birds in the work of Marcel Proust". This theme will open up a new topic that I will continue to explore next year. In October 2018, I organized the symposium "Literature according to birds", which brought together seven researchers, all specialists in French literature. Each gave a presentation on the theme of birds in writers of the 18th to 20th century. I made a communication entitled "Marcel Proust's ornithology", analyzing the metaphor of birds in the works of Proust. This conference allowed several discussions between specialists of the different authors, and also exchanges with the researchers in literature and ornithologists.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180234">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180234</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	経済学部	職名	専任講師	補助額	300 (A) 千円
	氏名	福田 桃子	氏名 (英語)	Momoko Fukuda		
研究課題 (日本語)						
フランス文学と鳥類学 -マルセル・プルーストを中心に						
研究課題 (英訳)						
French literature and ornithology : especially about Marcel Proust						
1. 研究成果実績の概要						
<p>マルセル・プルーストの作品において、鳥のテーマはきわめて重要かつ遍在的であるにも関わらず、これまで行われてきた研究は断片的なものにとどまっていた。本研究では、初期作品から『失われた時を求めて』まで、プルーストの作品における鳥のテーマを網羅的に分析することで、プルーストの美学の一端を浮き彫りにすることを目指した。</p> <p>プルーストに多大な影響を与えた作家であるピエール・ロティ、アンナ・ド・ノアイユ、ジョン・ラスキンの作品における鳥の描写が、プルーストに与えた影響について検討した。その結果、これまで明らかになっていなかった細部の読解が可能になった。とりわけ、ラスキンがプルーストにもたらした影響について新たな光をもたらすことができた。この点は今後更に掘り下げる必要があるため、次年度以降において発展させるべきテーマである。この研究の成果は、2019年3月に発表された研究論文「鳩からアルキュオネまで－マルセル・プルーストの作品における鳥－」にまとめられている。</p> <p>2018年10月には、慶應義塾大学日吉キャンパスで、「鳥たちのフランス文学」と題したシンポジウムを主催した。18世紀から20世紀フランス文学を研究する7名が、各人が専門とする作家における鳥のテーマについて発表を行った。ここでは、「プルーストの鳥類学」と題した発表を行い、プルーストの作品における鳥のメタファーの独自性について詳細な分析を行った。</p> <p>幅広い作家における鳥の表象を扱う本シンポジウムでは、文学と自然科学のつながりについて新たな知見をもたらすことができた。文学研究者だけでなく鳥類学者とも活発な質疑応答がなされ、文系・理系の枠組をこえた豊かな知的交流につながる催しだった。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The theme of birds in the works of Marcel Proust has not been sufficiently explored despite its importance. I attempted to clarify Proust's aesthetics by examining this theme in <i>In Search of Lost Time</i> as well as in his early works. I examined the theme of birds in the works of Pierre Loti, Anna de Noailles and John Ruskin, and their possible influences on Proust. A comparative reading with Ruskin around the theme opened a new and convincing interpretation of some enigmatic sentences in <i>In Search of Lost Time</i>. In March 2019, I published this interpretation in the article "Birds in the work of Marcel Proust". This theme will open up a new topic that I will continue to explore next year. In October 2018, I organized the symposium "Literature according to birds", which brought together seven researchers, all specialists in French literature. Each gave a presentation on the theme of birds in writers of the 18th to 20th century. I made a communication entitled "Marcel Proust's ornithology", analyzing the metaphor of birds in the works of Proust. This conference allowed several discussions between specialists of the different authors, and also exchanges with the researchers in literature and ornithologists.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
福田桃子	マルセル・プルーストの鳥類学	「鳥たちのフランス文学」シンポジウム	2018年10月25日			
福田桃子	鳩からアルキュオネまで－マルセル・プルーストの作品における鳥	『フランス語フランス文学』第68号	2019年3月			